



白聖

はくあ 第11号 令和8年8月19日発行



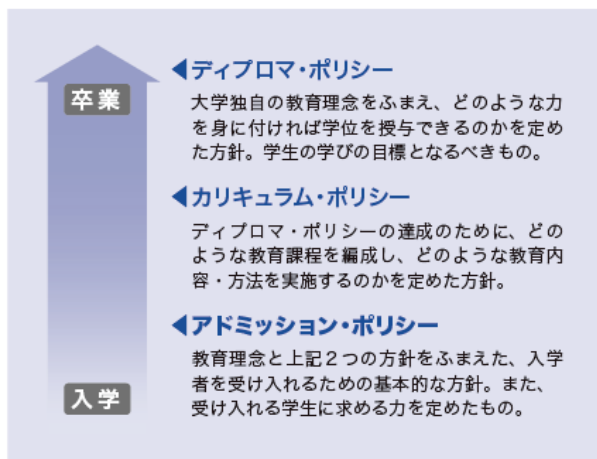
《大学について学ぼう①》

進路選択では自分に合った学校を見つけたいものですが、大学についてきちんと調べずに志望校を決めてしまい、入学後に後悔……なんて声もあります。そんなときに役に立つのが、「アドミッション・ポリシー」です。アドミッション・ポリシーについて知ることは学校選びや入試の傾向をつかむ手がかりになりますので、基本的な概要や役割について解説していきます。

【アドミッション・ポリシーとは】

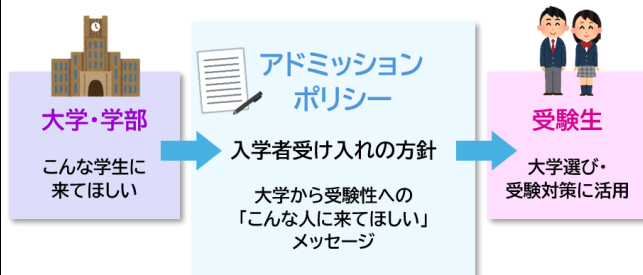
アドミッション・ポリシーとは、大学の「入学者受け入れ方針」のことで、自分と大学との相性を考えるうえで、参考にすべき重要な要素になります。

大学改革の一環として、2017年度から全ての大学に対して「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）」と「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」と「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」の策定と公開が義務付けられました。この3つの方針は、それぞれの大学が「どのような人を入学させ」「どのように育て」「どのような力を身に付けさせて卒業させるか」を示したものになります。大学はまず教育理念や建学の精神をもとにディプロマ・ポリシーを定め、その達成に必要な教育方針としてカリキュラム・ポリシーを定めます。この2つのポリシーをふまえ、どのような入学者を受け入れるか、アドミッション・ポリシーを定めます。こうして3つの方針が決まることによって、入り口から出口まで一貫した質の高い教育が行われると期待されています。



3つの方針は、その大学の教育の全体像が記されているため、受験生や保護者が大学を知るうえで非常に役立ちます。志望校が決まっている場合はもちろん、迷っている場合も、一度は目を通しておくとよいでしょう。

なかでもアドミッション・ポリシーは特に重要です。アドミッション・ポリシーは、どんな人に入学してほしいかを示した、大学からのメッセージです。求める人物像、求める力のほか、どんな入試を行うのかも書かれているので、大学と自分の相性を考えるよい判断材料になります。特に総合型選抜・学校推薦型選抜を受験する場合、志望理由が関係するので必ず熟読しましょう。



多くの大学は、大学、学部、学科のアドミッション・ポリシーを定めており、求める人物像や選抜基準など順に細かく、具体的な内容が記される傾向にあります。まずは大学のアドミッション・ポリシーを読み、その大学のたまかな校風を理解しましょう。次に学部のアドミッション・ポリシーを読みます。例えば経済学部と文学部では、求める人物像が異なります。だからこそ、学部のアドミッション・ポリシーは端的かつ具体的に、求める人物像がまとめられています。ホームページや大学案内で探しやすいのもポイントです。ぜひ確認しましょう。

【アドミッション・ポリシーはこう読む】

1. どのような力を発展・向上させるのか

どのような学生を育成するのかを、教育理念・教育プログラムに分けて説明しています。特に教育プログラムでは、学生をどのように育てるのか、具体的な内容に触れています。この部分を読んだうえで、より詳しい内容を調べたり、他学部に書かれていることと見比べてみたりすると、その学部の特徴がよくわかるはずです。

（裏面に続く）

2. 入学者に求める資質・能力は何か

求める人物像について記されています。大学の教育理念に基づいて、大学・学部・学科ごとに「どんな学生を求めているのか」を詳しく示しています。例として、東京大学のアドミッション・ポリシーにある「期待する学生像」を見て見ましょう。期待する学生像を見ると、以下の文が見つかります。

・・・入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

これを見ると、東京大学は以下の3つを満たそうと努力する学生を求めていることがわかります。

- ・「自らの興味・関心を生かして幅広く学ぶ」
- ・「諸問題を関連づける広い視野」
- ・「自らの問題意識を掘り下げて追究する深い洞察力」

このようにわかりやすいキーワードが他大学にもいくつかあるようです。こうしたキーワードが、自分に当てはまるか考えてみましょう。

3. 重きを置く能力とその評価のしかた

各入試方式によって測る力と、その評価方法が記されています。出題の背景にある大学の考えを知ることにより、一歩踏み込んだ対策ができるでしょう。大学によっては入試方式ごと（一般選抜・学校推薦型選抜・総合型選抜等）のアドミッション・ポリシーを用意していることもありますので、併せて確認してください。

【Benesse マナビジョンより引用・抜粋】

アドミッション・ポリシーには大学が求める学生像や教育理念が書かれています。志望校を決めるときにこの部分を読んでおくと、「自分の学びたいことと大学の教育方針が違った」というミスマッチが起きにくくなります。アドミッション・ポリシーは多くの大学・学部・学科のホームページでも公開されていますが、検索して出てこない場合もあります。その場合は学校案内パンフレットや入試要項などで探してみましょう。

《東北大学オープンキャンパス見学》

7月29日(水)・30日(木)の2日間、1年生の希望者を対象に「東北大学オープンキャンパス見学会」が実施されました。この見学会は、多くの学部学科を有する東北大学のオープンキャンパスに参加することによって、生徒が興味関心のある学問分野について体験的に触れる機会とし、今後の進路目標の設定に役立てることを目的として、1学年が企画したものです。東北大学は、1学年の第1回進路志望調査でも100名以上が第一志望に挙げているほど注目されている大学なため、今年度は195名の大人数での参加となりました。

東北大学は、10学部（文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、農学部）を有する総合大学で、いずれも仙台市内の4つのキャンパス（片平・川内・青葉山・星陵）に配置され、多様な専門分野の教育・研究を行っています。全ての学部が大学院研究科と連携し、研究志向の強い教育が行われており、学生数は学部生が約1.1万人、大学院生が約7千人の非常に大きな規模となっています。

生徒たちは自分が興味のある各学部の模擬講義、研究室見学、公開実験、キャンパスツアー、入試説明会などのたくさんの企画に参加して、大学への理解を深めていました。また29日夜には、宿泊するホテルに東北大学に在籍する卒業生7名を招いての進路懇談会も催されました。大学での学びや研究、仙台生活の紹介の他に、受験生時代の勉強方法といった現役東北大生ならではの話題やアドバイスに、生徒たちは真剣に聞き入っていました。それにより、今までは何となくのイメージとして捉えていた「東北大学とはどういうところなのか」をリアルなものとして実感していたようです。

長時間のバス移動を伴う密度の濃い1泊2日の東北大学オープンキャンパス見学会でしたが、生徒たちは体調を崩すことなく元気に参加していました。東北大学の雰囲気存分に味わうことで知的好奇心を刺激され、学習意欲を大いに高めて青森に帰ってきたようです。

